

## 第2章 下関市の夜間景観の現状

### 2-1 ライトアップ施設の一覧

赤間神宮



亀山八幡宮



春帆楼



日清講和記念館



唐戸市場



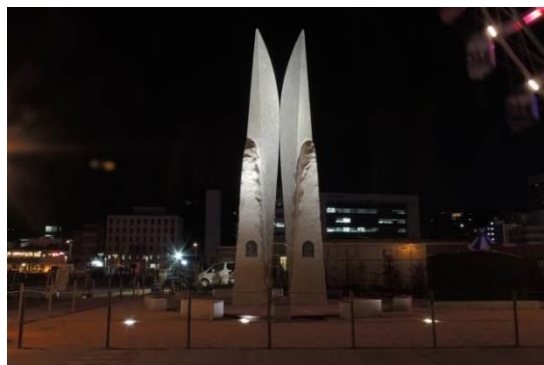
カモンワーク



ロンドンバス



青春交響の塔



下関南部町郵便局



山口銀行旧本店



海響館



大歳神社



旧秋田商会ビル



下関市立近代先人顕彰館



旧下関英国領事館



はい!からっと横丁



海峡ゆめタワー

下関市消防局庁舎



※ライトアップ施設の場所は、14頁をご覧ください。

## 2-2 主要な夜間景観の眺望

### 1 | 高所から見た唐戸地区の夜間景観の現状

#### 視点場 1 | 火の山展望台

標高 268mの火の山展望台から眺める夜景は、他のどの視点場よりも迫力があり、その美しさとスケールは圧巻の魅力があります。門司港地区、関門橋、唐戸地区のライトアップ施設、海峡ゆめタワーといった様々な光の要素が一望できます。



関門橋－唐戸地区を中心とした昼の眺め



関門橋－唐戸地区を中心とした夜の眺め

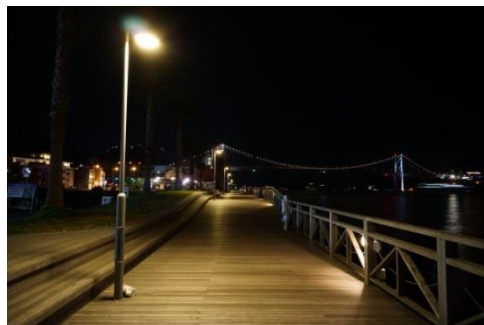


海峡ゆめタワーを中心とした夜の眺め



## 特徴1 | 関門橋の存在感

唐戸地区のボードウォークから関門橋を眺めると、関門橋を下から見上げる視点場となるため、橋脚のライトアップとメインケーブルのドット照明しか見えません(写真1)。火の山展望台からの眺めは、関門橋を見下ろす視点(写真2)となり、道路照明で照らされた路面が面の光となっているため、関門橋の迫力が最も際立つ視点場となっています。



(写真1) 唐戸市場前のボードウォークから見た関門橋

## 特徴2 | 存在感を示すライトアップ施設

カモンワークの明かりは、唐戸市場の手前にある緑地に隠れるため見えませんが、これだけ様々な光の要素がある中でも唐戸市場屋上にある鉄骨のライトアップ、海響館の大屋根のライン照明、はい！からっと横丁の大観覧車、海峡ゆめタワーのライトアップは、火の山展望台からも一際輝いて見えます。その中でも特に、はい！からっと横丁の大観覧車、海峡ゆめタワーのライトアップの輝度が強く夜間のランドマークとなっています。(写真3、4)



(写真2) 火の山展望台から見た関門橋

## 特徴3 | 連続照明の効果

高所から見ても海響館のLEDライン照明、唐戸市場前ボードウォークの手すり照明、あるかぽーと広場前のふ頭にあるポラード照明とポール照明といった連続照明、特に光源を直接見せることを目的とした照明は、巨大な照明器具を使用しなくても十分な照明効果が得られています。光害やグレア(不快なまぶしさ)などには充分注意する必要がありますが、LEDの光は指向性が強く、光源を見せることを目的とした照明手法には最も相性の良い器具となります。(写真4)



(写真3) 関門橋ー唐戸地区を中心とした夜の眺め



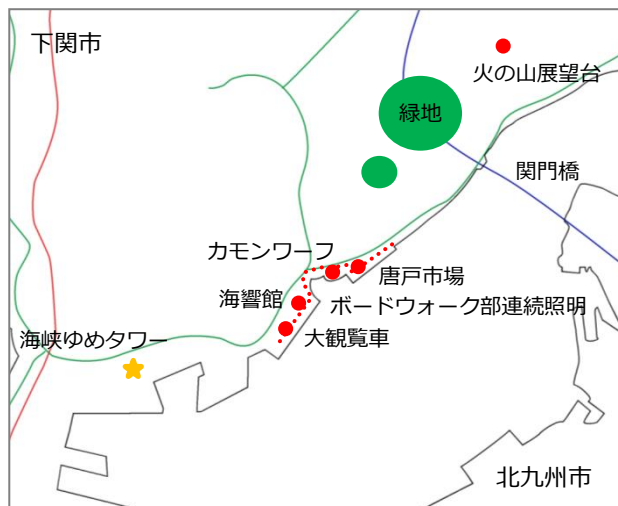
(写真4) 火の山展望台から見た唐戸地区の夜景

## 視点場 2 | 海峡ゆめタワー

火の山展望台より広い視界ではありませんが、ライトアップされた施設が多い唐戸地区との距離が近い  
ため、迫力のある夜景を楽しむことができます。また、火の山展望台よりも視点場の高さが低い  
ため、見える景色には奥行きがあります。道路照明のナトリウムランプのオレンジ色、ボード  
ウォーク周辺の電球色の照明、はい！からっと横丁のフルカラーの LED 照明でライトアップ  
された大観覧車、その他、街中に見られる水銀灯やメタルハライドランプの白色の光、更  
には、対岸の門司港地区の光など、色温度のバリエーションが多い夜間景観となっ  
ています。



唐戸地区を中心とした昼の眺め



唐戸地区を中心とした夜の眺め

## 特徴1 | 存在感を示すライトアップ施設

関門橋、唐戸市場、カモンワーフ、海響館、はい！からっと横丁の大観覧車といった唐戸地区の代表的なライトアップ施設は存在感があります。関門橋のライトアップは非常に繊細な光ですが、海峡ゆめタワー展望室からの眺めは、背景が暗いためライトアップされた橋が美しく浮かび上がっています。海峡ゆめタワーからの視点においても、はい！からっと横丁の大観覧車のライトアップの存在感が最も際立っています。

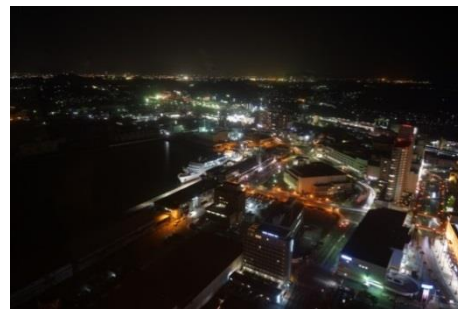
## 特徴2 | 連続照明の効果

関門橋のメインケーブル照明、唐戸市場やカモンワーフ前のボードウォーク照明、あるかぽーと広場前ふ頭のボラード照明とポール照明、海響館の大屋根の LED ライン照明など、ドットやラインの連続照明による光の効果は、火の山展望台からの眺めよりも更に強く感じます。

## 特徴3 | 新たな光の可能性

海峡ゆめタワーからの視点は、ナトリウムランプで照らされた岬之町ふ頭の存在感の大きさが良く分かります。海に面しているふ頭に連続照明を設置すると、唐戸市場から海沿いに続く光のラインが形成され、水際の連続照明が下関の夜間景観の個性としてより印象付けられます。

また、消防局庁舎前から海峡ゆめタワー方面へ続く護岸も、岬之町ふ頭から更に光のラインを延長すると、より魅力的な夜間景観となります。現在は、目立った照明設備はなく、暗く寂しい感じがします。このエリアに連続照明を設置すると、「画像1」の赤いラインに光が灯り、今後、期待されるエリアとなります。(黄色は既存の連続照明)



下関駅周辺の夜の眺め



下関駅-国道9号を中心とした夜の眺め



唐戸地区の夜の眺め



(画像1) 将来的に連続照明が期待されるエリア



## 2 | 対岸から見た下関市の夜間景観の現状

### 視点場 | 門司港地区



(写真1) 門司から見た下関の夜景



(写真2) 門司から見た下関の夜景 拡大1



(写真3) 門司から見た下関の夜景 拡大2



(写真4) 門司から見た下関の夜景 拡大3



(写真5) 門司から見た下関の夜景 拡大4



(写真6) 下関から見た門司の夜景



(写真7) 下関から見た門司の夜景 拡大1

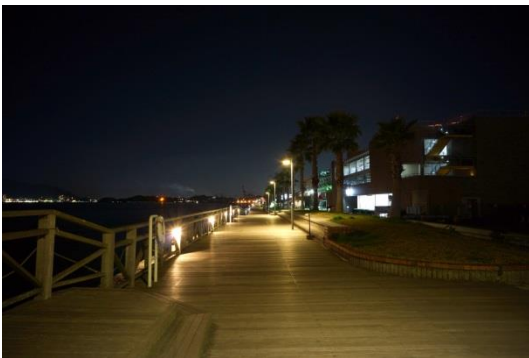


(写真8) 下関から見た門司の夜景 拡大2

## 特徴 | 広範囲に広がる光

唐戸地区と対岸に位置する北九州市の門司港地区には、レトロな外観をもつ歴史的建築物がライトアップされており、下関と良く似た特徴を持っています。下関の夜景と門司港の夜景を比較すると、下関の夜景は、ライトアップされた施設が広範囲に広がっており、その範囲は海峡ゆめタワーから赤間神宮辺りまでであり、ライトアップされた各施設がはっきりと確認できます(写真 1)。一方、門司港地区は、門司港レトロハイマートから関門海峡ミュージアム周辺までに光が集中しており、下関と比べると、狭い範囲にライトアップ施設が集中している印象があります(写真 6)。下関、門司港地区ともにライトアップされた施設を散策する楽しみがありますが、門司港地区は比較的限られた範囲を散策するのに対し、下関は街中を散策して夜景を楽しむ特徴を持っています。

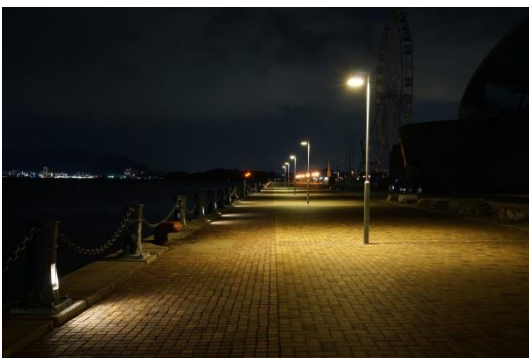
また、面の光、線の光、点の光といった光の手法のバリエーションや海峡ゆめタワーの光の演出、はい！からっと横丁の大観覧車の変化する光の動きなど光に多様性があります。更に、ボードウォークの白熱電球の手すり照明や一定の間隔で設置されたポール照明の連続した点の照明、海響館の大屋根のライン照明の水平方向に伸びる線の照明など、連続照明の光源は対岸からも良く分かり、下関の夜間景観は横への広がりを感じます。



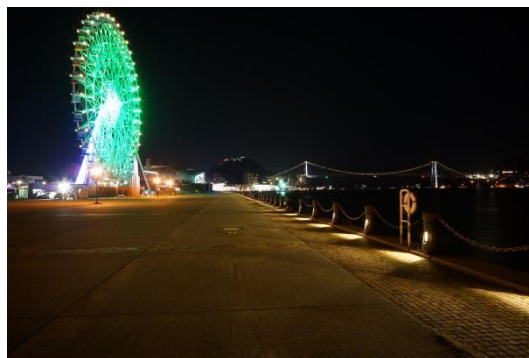
唐戸市場前のボードウォーク照明



唐戸市場前のボードウォーク照明



海響館前のふ頭のポラード照明とポール照明



あるかぼーと広場前ふ頭のポラード照明



## 2-3 道路照明の現状

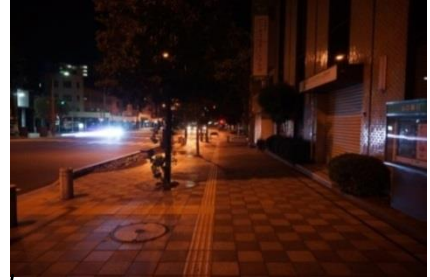
8. 市営細江町駐車場前の通り



3. 市役所前の通り



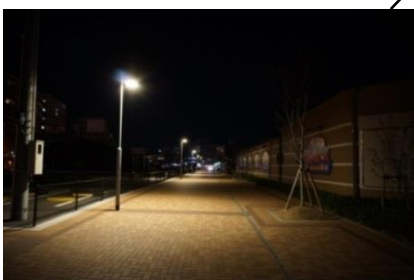
2. 県道 57 号線



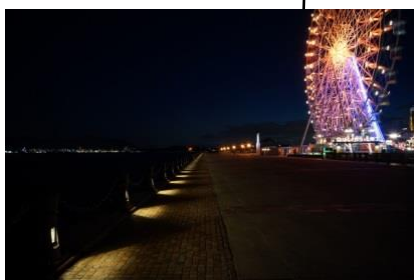
7. アンカー広場周辺



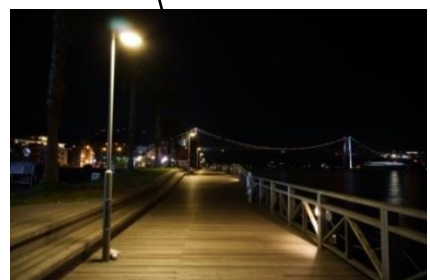
1. 国道 9 号



6. はい！からっと横丁周辺



5. 海響館周辺

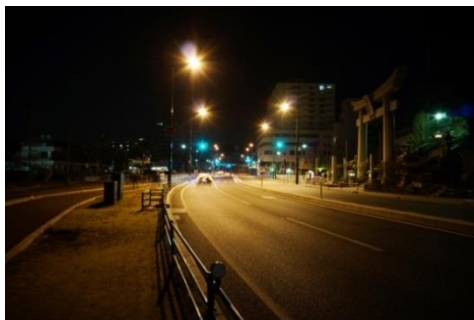
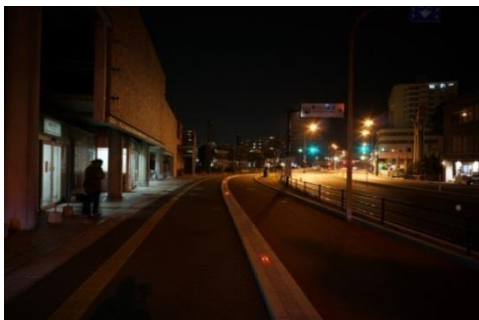


4. 唐戸市場ーカモンワーフ前のボードウォーク

## 1 | 国道9号（唐戸市場交差点—亀山八幡宮前）

---

唐戸市場、亀山八幡宮前の横断歩道周辺の交差点は、歩車道兼用のポール照明が各コーナーに1～2本設置されており、車道、歩道ともに十分な明るさが確保されています（写真1、2）。

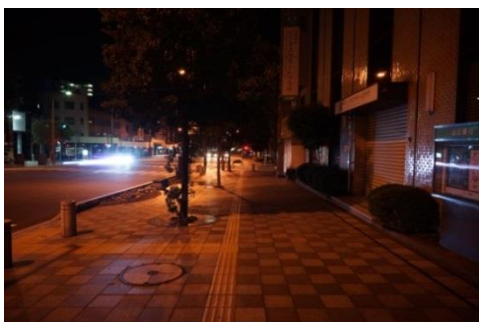


（写真1）唐戸市場の交差点から亀山八幡宮までの歩道 （写真2）亀山八幡宮前の交差点

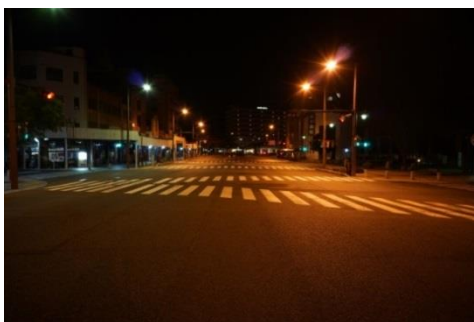
## 2 | 県道57号線

---

県道57号線には、歩車道兼用ポール照明が設置されており、車道、歩道ともに十分な明るさが確保されています（写真3、4）。



（写真3）県道57号線の歩道



（写真4）県道57号線

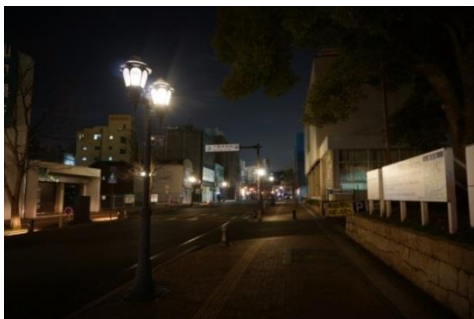
## 3 | 市役所前の通り

---

市役所前の通りにはガス灯が設置され、レトロな雰囲気を醸し出しており、下関らしい夜間景観の一つになっています。ガス灯のみでは十分な明るさが得られないため、路面を照らすポラード照明が設置されていますが、場所により薄暗い印象を受けます（写真5、6）。



（写真5）市役所前のガス灯



（写真6）市役所前のガス灯

## 4 | 唐戸市場—カモンワフ前のボードウォーク

---

唐戸市場前のボードウォークは、手すりに白熱電球の船舶照明、高演色タイプの演色本位形高圧ナトリウムランプのポール照明がリズム良く配置されており、電球色で照らされたボードウォークエリアは心地良い空間となっています（写真7）。また、カモンワフ前のボードウォークは、店舗の漏れ光があるため、他のボードウォークエリアよりも明るくにぎわいを感じます（写真8）。



（写真7）唐戸市場前のボードウォーク（関門橋側）

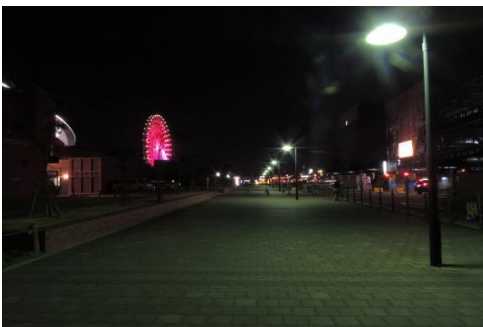


（写真8）カモンワフ前のボードウォーク（唐戸市場側）

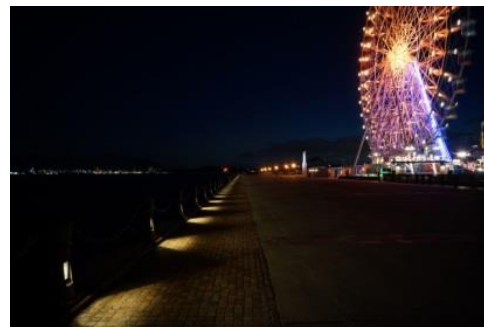
## 5 | 海響館周辺

---

海響館のエントランス前の歩道は、水銀灯を使用したポール照明が設置されており、明るさは十分にありますが、平均演色評価数 Ra31 と低く、青白く無機質な光の影響もあり薄暗い印象を受けます（写真9）。海響館周辺のボードウォークエリアの照明は、唐戸市場前から続く照明と同様の器具で構成されています。大観覧車前のふ頭は、ボードウォークエリアと同様の演色性の良いポール照明とLED電球色のボラード照明が設置されています（写真10）。このポール照明は大観覧車の回りからなくなり、青春交響の塔の位置からは一般的な高圧ナトリウムランプのポール照明に変わります。大観覧車のライトアップの時間帯は、ライトアップの光がふ頭全体に広がりますが、ライトアップが消灯すると、ポール照明が設置されていないエリアでは、ふ頭の幅が広いいため空間全体が暗く感じます。



（写真9）海響館エントランス周辺の歩道



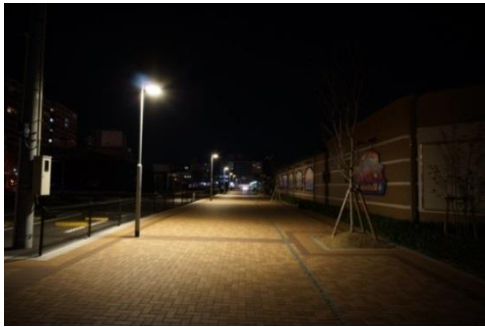
（写真10）海響館前のふ頭のボラード照明

## 6 | はい！からっと横丁—あるかぼーと広場周辺

---

海響館のエントランス前から続く歩道は、あるかぼーと広場まで続いています（写真11）。いずれも、ボードウォークエリアと同じ演色性の高いポール照明と同じものを用いて歩道を照らしています。この電球色の暖かみのある色温度とブラウン色の舗装との相性も良いため、海響館前のポール照明（写真9）と比較すると、心地の良い空間となっています。





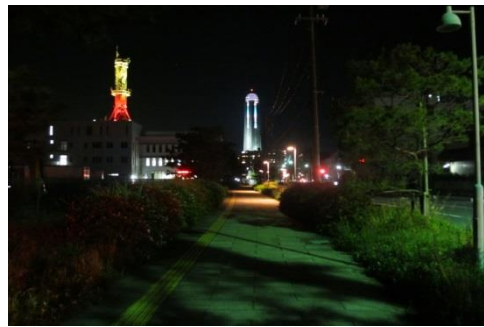
(写真 11) はい！からっと横丁前の歩道

## 7 | アンカー広場、下関警察署海峡交番、消防局庁舎周辺

あるかぼーと広場から続く歩道は、アンカー広場へつながっています。アンカー広場には、モニュメントや樹木、ベンチなどがあり、昼間は心地良い場所となっています。歩道のポール照明が点灯しており、樹木やモニュメントのライトアップはされていません。夜間は、ポール照明の光が広場の中央を通る歩道やモニュメントを照らしています（写真 12）。広場の歩道は、下関警察署海峡交番前の歩道を経て消防局庁舎前の歩道へと続いています。この歩道にも同様にポール照明が設置されています（写真 13）。



(写真 12) アンカー広場



(写真 13) 下関警察署海峡交番前の歩道

## 8 | 消防局庁舎から海峡ゆめタワーまでの通り

この通りは、唐戸地区から海峡ゆめタワーへ向かう動線となります。交差点に設置された道路照明は点灯していますが、歩道の意匠ポール照明は、路面を直接照射するタイプではないため、交差点間が薄暗い歩道となっています（写真 14）。海峡ゆめタワーに向かう通りにも、この通りオリジナルの歩車道兼用の意匠ポール照明が設置されています。市営細江町駐車場前の通りは、点灯していない意匠ポール照明が多く、駐車場の植栽部分に設置されているボラード照明も点灯していませんが、駐車場や集合住宅の漏れ光、外構照明の光で著しく不安を感じる程ではありません（写真 15）。



(写真 14) 消防局庁舎から海峡ゆめタワーへ向かう歩道



(写真 15) 市営細江町駐車場前の通り

## 2-4 商店街の現状

### 1 | グリーンモール商店街



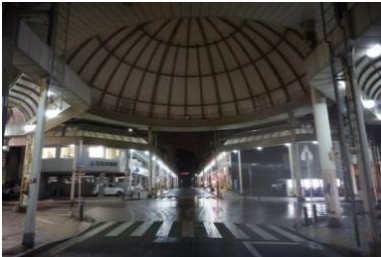
アーケードに直付けされた直管蛍光灯のみで構成されています。器具には笠がなく、光源が剥き出しのため蛍光灯の輝度がまぶしく感じます。夜間の明かりとしては確保されていますが、均質な光で照らされているため店舗の個性が出にくく、にぎわいの演出が十分ではない印象を受けます。

### 2 | 唐戸商店街

#### (1) 赤間本通り、赤間中央通り



照明のブラケットは、乳白グローブの発光タイプの器具のためグレア(不快なまぶしさ)は感じられませんが、発光部分の輝度が目立っています。商店街の中央部に位置する膜でできた大きなドーム天井と広場空間は、他の商店街にはない魅力的な空間となっています。ドーム天井には照明が設置されていますが、現状は点灯されていません。膜素材は光を受けやすく反射率も高いため、ライトアップとの相性が良い素材であり、点灯した際は、照らされた膜素材が光を透過し、離れた場所から見ると、発光している巨大な行灯のように見えるでしょう。ただし、現状のドームは汚れや傷みがあるため、ライトアップを行う際は補修や修繕が必要となります。



#### (2) 唐戸ふれあい通り



商店街の照明は、ドーム型のアーケードの両端(店舗前)に設置された住宅用のLEDの広角ダウンライト(昼白色)のみで構成されています。光源が見えやすく、非常にまぶしさを感じ、広角なダウンライトは空間全体に光を拡散させ、光と影のメリハリがほとんどないフラットな印象を受けます。唐戸地区の商店街の中では、唐戸銀天街と並び、特徴的なアーチ形状の天井を有し、商店街ならではの長い直線は空間としての魅力があります。また、現在は、夜間点灯されていませんが、ふぐをモチーフとした内照式サインは、この商店街独自の個性を演出しています。





### (3) 棧橋通り

商店街は、県道 57 号線の大通りに面する位置にあり、天井や柱などは老朽化が目立ちます。照明器具は更新が行われており、器具にカバーが付いていますが、カバーから透過する光や光源が見えるためグレア（不快なまぶしさ）を感じます。



### (4) 唐戸銀天街通り

商店街の照明は、ドーム型のアーケードの両端(店舗前)に設置された LED の広角ダウンライト（昼白色）のみで構成されています。住宅照明用の広角 LED ダウンライトを使用しているため、光と影のメリハリが感じられません。また、光源が見えやすいため、グレア（不快なまぶしさ）を感じ、特徴的なドーム状の天井を活かした照明環境になっていません。



### (5) 唐戸中央通り

他の商店街に比べ唐戸市場やカモンワープに近く、国道から見える位置にあります。直管形蛍光灯は、光源が直接見えるため、歩行者にとっては、蛍光灯の輝度はまぶしく感じます。蛍光灯は、拡散する光を放つため光と影のメリハリのない空間となっています。また、路面の赤茶系の素材に対して、蛍光灯と同じ白色の色温度となっており、空間全体がクールで無機質な印象を受けます。



## 3 | 豊前田・細江商店街

下関駅側の入口付近は、メタルハライドランプの笠付き乳白グローブ（発光タイプ）のポール照明のみで歩道の明るさが確保されています。発光部分の輝度は目立ちますが、乳白グローブの上部は遮光笠があるため、周辺に悪影響を与えるような光害はありません。また、商店街の中間付近に使用されている LED 防犯灯は多少グレア（不快なまぶしさ）を感じますが、下方配光のため、特に周辺への影響はありません。





## 2-5 下関市の光の特徴

### 1 | 横に広がる光

下関市の光で最も特徴的な光は、横に広がる光であると考えます。海沿いのボードウォークに設置されている白熱電球の手すり照明やポール照明、カモンワープの屋根のライン照明とドット照明、海響館の大屋根のライン照明、海響館やあるかぼーと広場前のふ頭のポラード照明などが代表的な例となります。これらの水平方向に広がる連続照明は、主に光源を見せることを前提としたものが多く、小さな光量でも、その存在感は離れた位置から感じることができます。また、下関の海沿いの建物は、大規模な施設であっても低層で横に広がりを持った建築物が多く、建物の窓や開口部から漏れる室内の光も横に広がる光の要素となっています。横（水平方向）に広がる連続的な光は、下関の夜間景観における特徴の一つとなります。



### 2 | 高低差のある光

横に広がる光に対し、国道9号周辺にあるライトアップ施設は、高低差のあるロケーションを持った施設が多く存在します。赤間神宮、春帆楼、日清講和記念館、亀山八幡宮、大歳神社などがその代表的な例となります。ライトアップされている施設へのアプローチが、階段やスロープとなっているものが多く、まず、アプローチの空間を活かした期待感の高まる照明演出で訪れる人を出迎え、高低差のあるアプローチを上ると、更にライトアップされた施設が現れ二重の驚きがあります。また、高低差のある敷地は、高い場所に上ると周囲を見渡すことができる視点場にもなります。

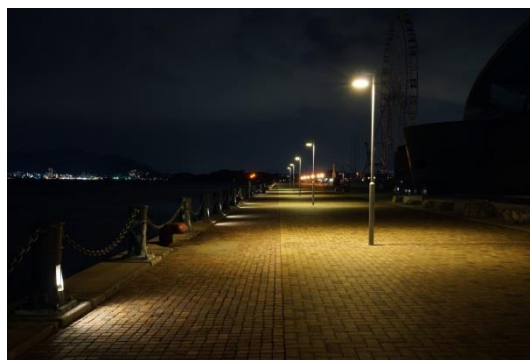
これらの施設と光の性質が異なりますが、下関には、火の山展望台と海峡ゆめタワーという100mを超える高所から圧巻の夜景を楽しむことができる視点場が2つも存在し、各施設が比較的近い場所にあるというロケーションも特徴的です。高所から見える美しい夜景も高低差が生み出す夜間景観となっています。特に、高さ153mを誇る海峡ゆめタワーは、施設自体もライトアップされ、下関全体の夜のランドマークとなっており、高低差のある光の象徴的な存在となっています。



### 3 | 暖かさを感じる光

---

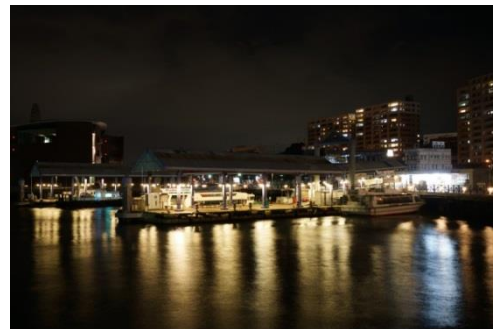
ライトアップ施設が集中している海沿いのボードウォークエリアからあるかぼーと広場前のふ頭周辺までは、特に電球色の光が多く存在します。この電球色の光は、ボードウォークの木素材や唐戸地区の広い範囲で採用されているブラウン系やベージュ系など赤色や黄色を含むペーブメント（舗道）とも相性が非常に良く相乗効果があります。また、夜間や冬場は寒々しく感じてしまう海沿いの景観を優しく暖かな空間に見せる効果もあります。更に、下関に数多く存在する歴史的建築物は、木造やレンガ造のものが多く存在します。これらの素材も電球色の光と相性が非常に良く、実際に電球色の光でライトアップされている施設も多く存在します。下関のシンボルである海峡ゆめタワーも、冬場は暖かさを感じるナトリウムランプのオレンジ色の光でライトアップされています。下関のまちは、電球色の光との相性が良く、夜間景観の一つの個性であると考えます。



### 4 | 海面に煌く光

---

下関は、海沿いに大きなライトアップ施設が集中しています。また、ふ頭の水際のラインは、一直線ではなくコの字形に入り組んでいる場所も多く、海響館から唐戸市場を見る視点場やその逆の視点場など、海面越しに夜景を眺めるシチュエーションも多く存在します。更には、対岸の門司港や関門橋からの視点等も海と夜景のコンビネーションとなっています。このような場合、黒い海面が鏡となり、ライトアップされた建物や光源を示すことを目的とした照明（ボードウォークの手すり照明や海響館大屋根のライン照明等）などが海面に映り込み、美しい夜間景観を作り出します。特に、海面が凧の場合は、美しい夜景が期待できます。高さ153mの海峡ゆめタワーが海面に映り込む様は見応えがあり、海面に煌く光は海沿いの観光都市ならではの夜間景観と言えます。



### 5 | 歴史的建築物が点在する街

---

下関エリアには、歴史的価値のある建築物、石碑、モニュメントが多数存在し、それらの建築物は単に古いというだけでなく、意匠的にも非常に優れています。また、木造建築と石で造られた洋風建築の両方がバランス良く存在し、それらの歴史的価値も高く、このようなロケーションは全国的にも珍しく、下関らしい景観と言えるでしょう。下関にある歴史的建築物の多くは既にライトアップされており、夜間になると光を受けた建築物は昼間とは違う表情を見せ、下関の夜間景観において欠かせない個性の一つとなっています。ライトアップされた歴史的建築物が点在している下関は、昼間だけでなく夜間もカメラを持ってまちを散策したくなるような魅力に溢れています。